

# 大牟田市立大正小学校

## 1 本校のESDの特徴

### (1) 活動のねらい

「持続可能な社会を構築するための人づくり」を目的とし学校・地域・保護者が世界遺産がある住みよいまちづくりを目指し、協働的な活動を通して、地域を愛する児童の育成に取り組む。

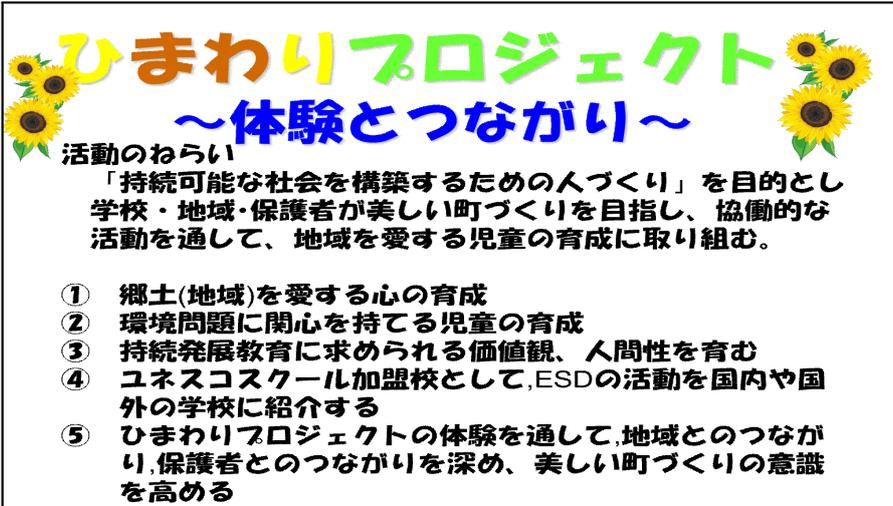
### (2) 活動の目指す成果

- ①郷土(地域)を愛する心の育成。
- ②地域の環境や郷土に関心を持てる子どもの育成。
- ③持続発展教育に求められる価値観、人間性を育む。
- ④ユネスコスクール加盟校として、ESDの活動を国内や国外の学校に紹介する。
- ⑤ひまわりプロジェクトの体験を通して、地域とのつながりを深め、美しいまちづくりの意識を高める。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

### (1) ESDの視点に立った学習指導の目標及びねらい(視点整理型アプローチ)

○教科等の学習指導を進める中で「持続可能な社会づくりに向けての課題を見出し、それらを解決するために必要な能力・態度を身につける」ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。



**ひまわりプロジェクト**  
**~体験とつながり~**  
活動のねらい  
「持続可能な社会を構築するための人づくり」を目的とし学校・地域・保護者が美しい町づくりを目指し、協働的な活動を通して、地域を愛する児童の育成に取り組む。

- ① 郷土(地域)を愛する心の育成
- ② 環境問題に関心を持てる児童の育成
- ③ 持続発展教育に求められる価値観、人間性を育む
- ④ ユネスコスクール加盟校として、ESDの活動を国内や国外の学校に紹介する
- ⑤ ひまわりプロジェクトの体験を通して、地域とのつながり、保護者とのつながりを深め、美しい町づくりの意識を高める

### (2) 主な活動

[1年生]

「こうえんであそぼう」「あきをさがそう」

[2年生]

「レッツゴーたんけん」「あきのまち」

[3年生]

「私たちの街じまん」

[4年生]

「バリアフリー社会を考えよう」

[5年生]

「ひまわりプロジェクト」

[6年生]

「大牟田の歴史遺産を未来に伝えよう」

「わたしの未来のゆめを伝えよう」

[全学年]

「ひまわりプロジェクト」

学校・地域一体型

### 3 特徴的な活動事例

＜第5学年 「ひまわりプロジェクト」＞

#### (1) 学習のねらい

- ①「美しく住みよいまちづくり」を考える。
- ②「美しく住みよいまちづくり」のための地域との協働。
- ③自分たちが住む大正校区に対する愛着と誇りを持った子どもの育成。

#### (2) 単元構成

3つのステージで「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の場面を設定し、児童の探究的な学習活動が連続・発展することができるようにした。

#### (3) 活動の実際

##### 《ステージ1》

「地球環境について」では、Kids X change(環境教育教材)を使って地球環境の変化を知り、「地球温暖化」「生態系の危機」「酸性雨」「オゾン層の破壊」「砂漠化」「水の環境問題」「世界中のゴミ問題」などから自分のテーマを決め、様々な地球が抱える諸問題について調べ、そのことをもとに大正校区の「美しいまち・住みよいまちづくり」のためにどんなことができそうか考えた。

##### 《ステージ2》

ステージ1での活動をもとに、「自分たちでできそうなことややってみいたいこと」を出し合い、「草取り・水やり・種取り」「ゴミ拾い・プランター」「啓発紙芝居」「啓発新聞」「啓発掲示板」「ペットボトルキャップ収集」の6つのグループを作り、それぞれの活動に取り組んだ。また、それぞれのグループ毎にその活動内容と経過について中間報告を行った。さらに、地域の方々と協働し大正町ロータリーの「子ども花だんプロジェクト」にも参加し、植樹作業などの活動を行った。



##### 《ステージ3》

ステージ3では、今までの活動を広げるにはどんな取り組みができるかを考え、「冬の花苗プランター植え」「ペットボトルキャップ回収」などの活動をするとともに、自分たちの課題毎に地域に広げる方法を考え、「新聞」「プレゼンテーション」「リーフレット」などを作成し、発信することとなった。活動の終末では、これまでの1年間の活動を振り返り、各グループ成果や課題などをまとめたものや感想などをもとに、全体報告会を開く予定である。



### 4 本年度の成果と課題

#### ○成果

- ・児童が探究的・協働的に学習活動に参加する中で、「自分たちの地域を美しく住みよいまちづくりへしたい」という意識の向上を持つとともに、「地域の人々と協働しながらまちづくりを推進していくこと」の大切さを実感することができた。

#### ○課題

- ・ステージ2・3における、地域との協働の拡がりを体験的に学習できる手立ての工夫が必要である。